

大学生協東海友の会だより

第2号

2026年4月1日

大学生協東海友の会

TEL 052-839-2898

第3回大学生協東海友の会通常総会のご案内

大学生協東海友の会会員の皆さまこんにちは。日頃より友の会活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

通常総会は、規約に基づき2年ごとに開催しております。前回は名古屋大学生協にて開催いたしましたが、今回は名古屋市立大学生協にて開催いたします。名古屋市立大学の厚生施設（生協店舗）は本年をもって最後の営業となり、来年には新しい厚生施設において生協が運営を行う予定です。友の会会員で名市大生協店舗にゆかりのある方におかれましては、ぜひ最後の店舗の姿を見届けていただければ幸いです。また、総会に先立ち、特別講演「めいきん生協・私的回顧録」の著者である田辺準也氏を講師にお迎えいたします。忙しい毎日ではありますが、気軽に参加し、楽しんでいただける友の会総会&懇親会を目指しています。

2026年第3回大学生協東海友の会通常総会を下記のとおり開催いたします。会員相互の交流と親睦を図るため、総会終了後には懇親会も予定しております。

万障お繰り合わせのうえ、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

第3回大学生協東海友の会通常総会&懇親会開催案内

- 日時 2026年6月6日（土）11：00～15：00
- 場所 名古屋市立大学滝子（山の畑）キャンパス 生協食堂ホール
- 特別講演 「めいきん生協・私的回顧録」著者 講師 田辺準也氏
- 総会議案 第1号議案 2024年～2026年 活動報告及び決算報告承認の件
第2号議案 2026年～2028年 活動計画案及び予算案承認の件
第3号議案 大学生協東海友の会役員選任の件
- 懇親会 総会終了後開催（参加費 6,000円は当日お支払い）

※第3回大学生協東海友の会総会&懇親会 出欠はがきを4月30日までに投函お願いします



連絡先

大学生協東海友の会事務局（大学生協東海会館内）

〒466-8657 名古屋市昭和区山手通2丁目16-1 担当事務局：村瀬健一

TEL 052-839-2898

E-mail: tomonokaitokai.staff@gmail.com（葛谷、加藤、村瀬）

FAX 052-839-2894

名古屋大学生協 新店舗 (KIOSK)のご紹介

昨年7月、名古屋大学東山キャンパス内において、中央図書館東側のグリーンベルト地下空間を活用した新しい施設「Common Nexus (コモンネクサス)」が開設されました。この施設は、大学がこれまで培ってきた知や研究成果を学内にとどめるのではなく、広く社会へと開いていくことを目的とした共創施設です。そのため、利用者は名古屋大学の学生や教職員に限定されておらず、地域にお住まいの方々や子どもたち、企業関係者、アーティストなど、年齢や立場を問わず、誰もが自由に立ち寄り、利用できる公共的な空間として位置付けられています。

施設内には、利用者が思い思いに過ごせるよう、自由に使える机や机が数多く配置されており、勉強や読書、打ち合わせ、ちょっとした休憩など、さまざまな目的で多くの名古屋大学の学生が集まる場所となっています。また、Common Nexusは単なる滞在スペースではなく、複数のエリアで構成されており、それぞれが異なる役割を担っています。その中の一つとして設けられているのが、ミニショップ「KIOSK (大学が命名)」です。このミニショップについては、施設全体の運営方針や利便性を考慮した大学からの強い要望があり、名古屋大学生協が運営を担当することとなりました。

このミニショップは、Common Nexusが掲げるコンセプトや景観イメージを最大限に尊重して設計されているため、一般的な店舗とは大きく異なる、非常に特殊なレイアウトとなっています。最大の特徴は「壁がない」店舗である点で、空間全体と一体化した開放的なつくりになっています。また、施設自体が半地下に位置していることに加え、強い照明を設置しないという設計方針のため、店内は全体的に落ち着いた、やや暗めの雰囲気となっています。設置できる棚の数や面積には大きな制約があり、商品構成もそれに合わせて最小限に抑えられています。常温で販売できる商品としては「パン」と「お菓子」に限定し、ショーケースについても設置可能なスペースが限られているため、通常の冷蔵ショーケースは断念しました。その代わりに、食堂で調理した「冷凍弁当」や「アイス」を販売するための冷蔵ショーケースと、「ドリンク」を販売するための柱型の冷蔵ショーケースのみを設置しています。さらに、写真にあるような形や高さが特徴的なプラットフォームを活用し、「名大グッズ」の販売も行っています。壁がない店舗構造であるため、防犯や閉店後の対応にも工夫が必要です。レジ台や各棚については、閉店後にフタをして商品を覆うことができますが、プラットフォームについては閉店時にレジ前まで移動させ、その上に商品を隠すための布を掛けるという方法を取っています。

営業時間は平日が10時から18時まで、土曜日は10時から13時30分までとなっています。利用状況としては、平日は1日あたり100～150名程度、土曜日は40～70名程度の利用にとどまっております。正直なところ経営面では厳しい状況にあります。しかしながら、大学からの強い要望を受けて設置・運営している店舗であるため、現在は「大学への貢献」という位置づけで継続的に運営を行っています。

さまざまな制約があり苦労も多い店舗ではありますが、今後はより多くの方に利用していただけるよう工夫を重ね、将来的には経営的にも成り立つお店にしていきたいと考えています。地下鉄名古屋大学駅と直結しており(1番出口方面)、アクセスも非常に便利ですので、名古屋大学にお越しの際には、ぜひ一度ミニショップKIOSKをご利用ください。



名古屋大学生協 常務理事 西尾浩二



豊田講堂側から見た Common Nexus 全景
施設はこの芝生の下にあります。

ミニショップ全景→



名大グッズ →



名大4年+東大12年=書籍担当者16年の現場

2009年4月から2013年8月まで名古屋大学生協、それ以降は東京大学生協に在籍している足立裕太と申します。名大の先輩である加藤事務局からお声掛けいただき寄稿いたします。

私はごく個人的な理由で移籍をさせてもらったため、書籍事業に対する崇高な目標や理想を掲げて東大に移籍したわけではありません。とはいえ東大の書籍部にいる以上はそれなりの工夫が必要ですし、周囲からの目もあります。何より利用者の要求水準や期待値が高く、行動で応えていくことが求められます。そのことを重荷には感じませんし、むしろやるべきことを利用者が示してくれるくらいの気持ちでやっています。



足立裕太

私は入協から一貫して書籍部単独店でのみ勤務しており、希少種となりつつあるようです。同期で書籍担当者を続けている人もだいぶ減り、大学生協全体で見ても書籍関連の人材不足は懸念されていると聞きます。書籍部は各大学生協の中で、もっとも個性が現れる店舗だと思います。それだけ面白味と責任のある部署の担当者が減っているという現状をつまらないなと思う一方、購買部や食堂部を見ていると非常に大変そうで、そちらに人手が必要なこともよくわかります。私は希少種のまま息切れしないようにどうすべきかと考えながら日々業務に向き合っています。

在籍年数的にはすっかり東京の人になり、その間に全国の書籍部は規模縮小や人員削減により経営も運営も厳しい状況になっています。東大生協の書籍部も例外ではありませんが、東大が音を上げたら書籍事業はもう終わりだと思います。「(良くも悪くも) 東大だからなんとかかなっている」と思われるのではなく、「東大は様々な取り組みの結果なんとかかなっている」と思われるように、活動や現状をより多くの人に知ってもらうことがここ最近の課題です。これまでも外部への発信機会があれば活用してきました。ウェブで読める記事を以下に掲載します。これを読んだみなさんが、なんとなく楽しんで、ちょっと元気になって

じんぶん堂 2022年12月5日掲載記事

東大生にいま、人気の本とは? 「新たなスタンダード」が続々

<https://book.asahi.com/jinbun/article/14780978>



東大駒場書籍



『東京大学新聞』2024年3月21日掲載記事

【寄稿】駒場書籍部店長が語る、表現する場としての書籍部

https://www.todaishimbun.org/komababook_20240321/

『白水社の本棚』2023年春号より連載中

大学生協という〈現場〉

<https://www.hakusuisha.co.jp/hondana/>

↑2024年夏号掲載の第10回は、名大にいた頃を思い出して書いた内容です。当時いた方であれば、誰のことを書いているか察しがつくかもしれません。



大学生協共済連からコープ共済連への共済事業譲渡について

1. 共同引受の実現と保障の拡大

1981年に始まった学生総合共済は、学生同士のたすけあいの制度で大学・専門学校等に在学中のケガ・病気や父母・扶養者のもしもの際に、共済金を支払う事により、加入者の経済的な損失を補い、生活の安定をはかり、学業継続を少しでも支えることを目的とした共済です。この学生総合共済は大学生協が存在する大学（2022年度末で212大学生協と5つの都府県にあったインターカレッジコープ）の学生に限定された制度でしたが、2022年4月、大学生協共済連とコープ共済連（日本コープ共済生活協同組合連合会）による共同引受が開始されました。これにより、大学生協のない大学の学生でも保護者が地域生協の組合員であれば加入が可能となり、日本全国の全学生へ保障を届ける体制が整いました。



大谷光一

保障面では、精神疾患の早期受診を促す「こころの早期対応保障」の新設や、コロナ禍における100億円規模の共済金支払いを通じ、学生の学業継続を支えてきました。また、卒業後も無保障にならないよう、30歳まで加入継続できる「新社会人コース」を設定し、大学生協から地域生協へのスムーズな移行と一生涯の保障提供を推進しています。

2. 「再生」に向けた事業譲渡と組織統合

共同引受の開始直後、コロナ禍によるキャンパス閉鎖の影響で大学生協は史上最悪の赤字を記録し、自己資本比率も大幅に悪化しました。この経営危機を受け、大学生協の「再生」と経営基盤の強化、契約者保護を目的として、共済事業をコープ共済連へ集約する事業譲渡・包括移転が決定されました。当時の大学生協共済連も2020年度から2022年度までの3事業年度において106,652人の契約者に対して、総額102億9,537万円の共済金をお支払いする事が出来ました。しかし2020年度の大学生協連会員生協の決算（合計）は都市部を中心に「キャンパスに人がいない」という状態が長期にわたった事が主要因に、事業剰余△101.2億円、当期剰余△35.4億円と史上最悪の決算となりました。これを受け大学生協共済連、コープ共済連の両理事会で基本方針を議決、2021年12月の大学生協共済連通常総会で「共済事業譲渡及び大学生協共済連解散基本方針」が議決され、2022年5月の臨時総会で共済事業の全部譲渡と共済契約の包括移転及び大学生協共済連の解散が可決・決定されました。残余財産のうち約107.5億円が、代理店としての貢献を考慮し各会員生協へ分配されました。2022年10月1日からはコープ共済連を元受とする新体制へ完全移行し、従来の事務品質を維持しながら、より安定した事業運営が可能となりました。

3. 現在の到達点と今後の展望

2025年11月現在、学生総合共済の加入者数は新社会人コースを含め約86.6万人に達し、前年同月比で約4.9万人増加しています。特に地域生協経由の加入が伸びており、将来的には全大学生の約3割への普及を目指しています。この仕組みにより、大学入学から卒業、社会人に至るまで、若年層の生活を支えるとともに、生協全体の事業・経営に貢献していく考えです。

CO-OP 共済

CO-OP 学生総合共済 (大学生協組合員用)

<https://kyosai.univcoop.or.jp/info/pdf/pamph2026.pdf>

https://kyosai.univcoop.or.jp/info/pdf/pamph_grad2026.pdf

～子ども食堂の活動紹介～

名

大生協を定年退職して12年になろうとしています。退職後2人の娘が次々と里帰り出産をして4人の孫が生まれ、今年は全員小学生になりました。退職後はプール、地域の方に誘われ、歌声サロン、ダンベ体操、フラワーアレンジメント、ジャズダンスとサークル活動を始めました、テニスは20年近く学童のOB父母仲間と休日やっていましたが、平日もシルバーテニスを楽しんでいます。町内の役員など社会活動にも関わって、毎日忙しい生活を送っています。

2016年2月に学童OBの親仲間が自宅のピアノ教室で子ども食堂をやりたい、子どもたちに食事提供と地域のつながりを作りたいということになり、生協食堂で仕事していた私にもスタッフのお誘いがあり、協力することになりました。

同3月に天白区の八事東学区内で第1回「子ども食堂につっここ」を開催して10年たちました。基本月1回50食の食事提供と食後の企画を毎月スタッフ会議をして前回の総括、3カ月後までの献立表、食後の活動を決め、次月のレシピ作成、食材買い出し、お礼状作成を確認します。

この10年を振り返ると2012年に東京大田区で1人でご飯を食べる孤食をなくそうと始まった子ども食堂が名古屋でも北区の医療生協なども入った団体が初めての「わいわい子ども食堂」を2015年に開設しました。わたしたちスタッフで見学体験に行き、ノウハウ、イメージを学びました。愛知子ども食堂ネットワークにも加入して交流会や学習会に参加し、運営、食材確保のネットワーク等学びました。中京大学の成(ソ)先生のゼミが子ども食堂の居場所作り、現状と課題ということで取り組み、ゼミ生がサポーターで来てくれ、子どもたちと遊んでくれたり他の食堂の様子をまとめた冊子で他の食堂のを知ることができ、さらに良い点を取り入れることができました。

コロナ禍4年間はヶ所に集まってるの食事はできなかったので、お弁当作りを行い、配布しました。家族分を含め130食位製造しました。この時は私の職場(名大生協 七味亭)の仕事の弁当屋作りのノウハウが大いに役に立ちました。夏は食材そのものの配布を行いました。始めた頃は宣伝チラシを知人に手渡し、家の前、駄菓子屋さんでの掲示、各町内会長さんの協力で各掲示板に掲示させて頂きました。その後、フェイスブックを始めたら学区以外の他区からも来てくれるようになりました。食材やカンパも町内在住の方だけでなく、たくさんの方から頂くようになりました。

毎月、カンパや米、子ども用お菓子をくださる方がいます。また、在籍町内会からの補助も頂けるようになり、その後、他の町内会からも支援を頂くようになりました、自家製野菜や果物とかお歳暮、お中元など家で食べきれないものをくださる方もいて大変助かっています。名古屋市が国からの助成金で食材支援、県から助成金、フードバンク、企業からの支援品などがあり、物価高ですが子どもは無料、大人300円(70歳以上200円)で運営しています。

2024年8月より食堂での会食が再開し、今では「誰でも食堂」子どもからお年寄りまで利用しています。また食後の企画(手品、防災、紙芝居、音楽、おやつ作りなど)で多くの人たちに協力して頂いてきたことで幅広い方々とのつながりも広がってきました。

子どもを中心に、母親、高齢者や障害者を含む地域住民の多世代交流の場として大きな役割を果たしてきました。官民が後押しして全国で1万箇所を超える子ども食堂ができましたが、貧困や雇用問題、物価高で生活が大変な方が増えており、民間主体の支援では限界があります。政治は現実を直視して子ども食堂を応援するだけでなく、生活に困っている方々への抜本的な対応を抜本的に進めてほしいとつくづく感じています。



佐野育子



自然と子供にかかわるボランティア

「水源の森と八竜湿地を守る会」と「もりの学舎」

現在、名古屋市守山区にある八竜緑地「水源の森と八竜湿地を守る会」で保全活動と自然観察会を行っています。定年後をどう迎えるか？やりたいことは？と考えたのが、自然観察やボランティア活動と子供と遊べる活動を目指すことでした。少し早めに退職し、まずは自然についての勉強はNPO法人東海自然学園【東海シニア自然大学】に入学、【自然観察指導員】講習会に参加して会員登録、さらに子供と一緒に遊ぶ「自然あそび」を学ぶために【日本シェリングネイチャー協会】講習会に参加しリーダー登録しました。仕事は造園会社に就職して、樹木の名前、木の伐採などの保全作業に役立ちそうな経験を始めました。週休2日で勤務は週3日～4日（日給制）で勤務日を申請する方式なので、ボランティア活動にも参加する時間ができます。子供関係のボランティアを探していたところ、愛知県環境課で5年ぶりに愛・地球博記念公園環境学習施設【もりの学舎】でインタープリター養成講座の募集がありました。早速、応募して6回の研修後、採用が決まり。現在は造園会社を退社し、もりの学舎インタープリターで月に4日～7日勤務しています。



細江真澄



水源の森と八竜湿地を守る会の活動

- ・毎週木曜日、第三月曜日、最終土曜日 の6回保全作業
- ・毎月第一日曜日の自然観察会
- ・大森北小学校、大森小学校の自然体験学習のお手伝いをしています。

ホームページ

<https://hachiryu.sakura.ne.jp/>

※名古屋市守山区の近くにお住まいの方、自然の中で活動したい方、自然に興味ある方、観察会や保全作業に参加してみませんか。

もりの学舎の仕事

- ・インタープリターともし遊びにいこう
 - ・インタープリターと歩くもりのツアー
 - ・その他：広場deしぜんあそび・あそび工房・キッズクラブ・もりのようちえん・森の伝道師（保育園、小学校）
- ※お孫さんと一緒に遊びに来てください！

ホームページ

<https://kankyo-gakushu-plaza.pref.aichi.jp/manabiya/>



東海若者サポート（仮）：構想

18歳の崖を超えて 若者が地域で躍動するためのセーフティネットを

1) 「社会的養護」とは

・保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと（こども家庭庁HP）。

・具体的には、児童相談所が施設や里親への措置や一時保護等を行う。

児童養護施設 18才での施設の退去

・児童虐待件数 愛知県7289件 名古屋市3089件

うち代替養育（親代わり） 愛知県1941件 名古屋市807件



今井信彦

2) なぜ今、この取組みが必要か

①背景：社会的孤立 経済的困窮だけでなく、社会的孤立が大きな問題。特に児童養護施設退所者や支援の狭間にいる若者が直面しています

②目的：協同組合の連携 生協、医療生協、労金等の協同組合が連携し、地域づくりと本人支援の両面からサポート体制を構築します。

③ゴール：愛知モデルの構築「支援が必要」と声を上げにくい若者に対し、寄り添い、伴走するローカルな（愛知らしい）仕組みを目指します。

3) 主体団体と研究会の体制

①主体団体：協同組合ネットあいち

愛知県内の協同組合や協同組織で構成される「愛知の協同組合間協同連絡会」の略称。

持続可能な地域社会づくりへの

貢献を目指すネットワークです。「地域若者サポートネットワーク（仮）」事業構想への取組みは、その1つ。

②連絡会参加団体（順不同）

JAあいち中央会、全国大学生協連東海ブロック、北医療生協、ワーカーズコープ東海事業本部、愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会、東海労働金庫、こくみん共済COOP、コープあいち、南医療生協、生活クラブ生協愛知、地域と協同の研究センター

4) 研究会の全体計画（全6回）と進捗

第1回（8月）

第2回（9月）

第3回（11月15日）

現場の課題を学ぶ

支援と制度の現状を学ぶ

中間協議・愛知版の仕組み検討

第4回～第6回（2026年3月までに）

愛知モデルの具体化と事業構想の策定

「18歳の崖」とは

18歳を境に若者への支援が急激に減少し、生活が不安定になりやすい状況を指す言葉です。特に児童養護施設や里親家庭で育った子どもに深刻な影響があります。施設では原則18歳で退所となり、住む場所・生活費・進学や就職の準備をすべて自力で行わなければなりません。家庭の支えがないため、家賃や生活費の負担、仕事探しの難しさ、相談相手の不足など、多くの困難が一度に押し寄せます。児童福祉の制度は18歳で区切られている一方、社会で自立するには十分な準備期間が必要であり、この制度上の急な断絶が“崖”に例えられています。近年は退所年齢の延長やアフターケアの強化など改善が進んでいますが、地域差や支援の不足は依然として課題です。

豊臣兄弟！（NHK大河ドラマ）と小牧・長久手の戦い

■小牧・長久手の戦い

「本能寺の変」で織田信長を失った織田政権は「清須会議」を経て信長嫡孫の三法師（織田秀信）で再始動する。政権運営の主導権をめぐる内部対立が激化。

「賤ヶ岳合戦」「小牧・長久手の戦い」

○家康の戦術（小牧山城、岩倉城、岩崎城）

織田信長の三男・信雄は当初羽柴秀吉と手を結んでいたのだが、あくまで家臣であったはずの秀吉の台頭を不満に思うようになっていく。そこに手を差し伸べたのが徳川家康だった。家康にとっても、これは天下獲りの好機だったのだ。こうして1584年秀吉対家康・信雄連合軍で、小牧・長久手織田政権の戦いが行われた。この戦いにおいて秀吉率いる本隊は消極的に動き、一方で血気にはやった羽柴秀次率いる別動隊が壊滅し、有力武将の池田恒興が打ち取られるなど、兵数で劣る徳川軍の活躍が目立った。

○秀吉の懐柔（犬山城、羽黒城、楽田城）

豊臣秀吉は軍事的には圧倒できないと判断し、外交による解決へと方針を転換した。家康を支持していた領地を保障する条件で講和を結び、家康の戦う大義名分を奪ったのである。これにより家康も軍を退き両者の間にも和平が成立した。戦闘では苦戦した秀吉であったが、最終的には実質的な勝利を収めた。この結果、小牧・長久手合戦は秀吉の「勝利」で幕を閉じることになる。秀吉はこの合戦の勝利によって、織田家当主であった信雄と主従関係を逆転（「下剋上」の実現）秀吉は朝廷から天下人の立場を認められ、従三位権大納言へと昇進を果たした。名実ともに天下人としての立場を明確にしていきました。



豊臣兄弟！「天下分け目の戦い」地元の小牧・長久手の戦いを注目してはいかがでしょうか？

大学生協東海友の会だよりの感想・みなさんの近況報告を友の会事務局へお寄せください

E-mail: tomonokaitokai.staff@gmail.com (葛谷、加藤、村瀬)

「大学生協東海友の会」のホームページをご覧ください。
直接のリンク先（友の会ページ）はこちらになります。

https://www.univcoop-tokai.jp/etc/etc_594.html

会員専用ページへすすむには tomonokaitokai と入力して下さい。



編集後記

友の会だより創刊号の編集後記には参議院選挙結果に関連したことが記載されていました。続いてその年の10月に総選挙。そして、友の会だより第2号の編集作業の時期にもまた総選挙がありました。生協で働いてきた者として今回の選挙結果は衝撃的でした。日本が「戦前」から「戦争前夜」にすすんできた危機感を持ちました。また、国政は現役世代を守るために高齢者や社会的弱者を切り捨てようとしているように感じます。

一人は万人のために。よりよい生活は平和があつてこそ。戦争と生協は利益相反関係ですよ？

第2号がお手元に届くころには、どのような状況となっているでしょう？寿命が延びる一方で年金が目減りしている昨今、生活や健康のため働き続ける方も多いのでは？その生活を守るためにはのんびり「隠居生活」もできない感じですか。ママも戦争止めに行く時代、選挙で選ばれた人達の言動に関心を持ち、私たち生協OBもやれることで戦争止めに行ってもいいのでは？平和を守るのはいつ？（今でしょ！）

のんびり隠居生活ができる世の中つくるために。孫のために。現役世代のために。

編集委員：佐野和宏、葛谷光雄、松本信幸、長尾邦松、細江真澄、吉川太郎、斉藤朗、加藤肇